コインブラ大学

マントを着た学生

図書館

図書館の内部

旧カテドラル

きました。また、２階のテラスからはモンデゴ川とコインブラの町並みが一望でき、足下が不安定で怖かったですが、写真におさめました。

図書館（１７２４年）は必見です。ジョアン５世（在位１７０６から１７５０）が建てたので「ジョアン５世の図書館」と呼ばれています。蔵書３０万冊を誇り、遠近法の錯覚を利用した天井、華麗な装飾や金箔が施された調度品などに圧倒されジョアン５世の肖像画が飾られており、ポルトガル最高の文化財です。大学内で写真撮影が出来ない場所があるので、入口からずっとマントを着た学生風の男が日本語の案内書を持ってついてくる。DVD も付いていたので購入した。

次に旧カテドラルに行く。聖母マリア昇天の木像を祀り、祭壇の右側には１６世紀のキリスト像と福音書を製作した４人の像、１０人の使徒の像があります。バロック様式のファサードを持つ新カテドラルも１５９８年に建立され、完成までには１００年の歳月をかけています。祭壇背後の飾り壁は１７世紀の彫刻家、ジェロニモ作の金泥塗りの木彫（ターリャ･ドゥラーダ）です。係の方が鹿児島のベルナルドという日本人が眠って場所に案内していただき、説明を受けた。ザビエルから洗礼を受けた初めての日本人でローマ教皇に謁見した人物であった。日本からの長旅で体調を崩し 1557 年に亡くなったと伝えられています。歩いたら踏んでしまうようで段差がないので、後退りして遠くにて説明を受けて、帰り際にそっと撮影しました。

ホテルに向かうバスの中で、入江さんがポルトガルの代表料理を説明。バカリャウと呼ばれる塩漬けにした干鱈（ひだら）の料理は、国民食として毎日のように食卓に登場。調理法は３６５種もあり１日に１回食べても１年中違う料理が食べられるとのこと。代表的な料理はバカリャウ･アブラス、バカリャウ･コジード、コロッケ･デ･バカリャウ、グラタンなどがあります。ノルウェーやアイルランドあたりからの輸入もの。乾物ですが、柔らかさが残るふっくらした感じです。
干鱈は遠洋に船出する航海士たちには欠かせない保存食でした。

コインブラのホテルよりレストランに向かう。毎日、夕食前に少年少女８名が交替で本日の訪問視察先などで経験したことや感想意見を言うように成っています。ポルトガルやローマでも同じだったですが、町のレストランやホテルのレストランでも最初から最後まで背の低いおじさんばかりが料理を運んできました。

次の朝は、今朝は早めに起きて窓から見ると、レンガ色の統一した屋根が見える。丘の上にコインブラ旧大学が建っている。ホテルを左に出て歩いていると、バス停が行儀良く並んでいるので、バスの発着場でもあるのか、各停留所に通勤者らしき人たちが待っている。並木道を進んでゆくと、電話ボックスがあったので、日本に電話した。

朝食後、リスボン空港に向かう。今日はイタリアへの移動日である。バスで３時間ほどかかるため、時間がないので、バスの中ではホテルのボックスランチが配られた。水と乾燥したパンと青リンゴが入っていた。今日は８月６日（月）で、カメラマンの門畑さんの誕生日だったので、バスの中で全員で御祝い励ましの歌を大合唱しました。「親なのに子のとり」、「皇帝が何か買うて～と言っている。」、「煉瓦色の屋根ばかりで、ヤ～ネ」とか言い続けていると子供達より「寒い」言われつづけました。

新カテドラル

ベルナルド氏が眠っている場所

パイプオルガン

移動中のバスの中

空港内

入江さんと

空港まで時間があるので、入江さんは身の上話を始めた。夫は日本人で同業者。ガスが５０日止められたこともある。８月は裁判所も働かない。断水も年に３回ほどある。インコを飼っているが元気がないので、近くの獣医に診せたらオスなのにメスと言うので、リスボン大学に行ったら、太りすぎと言われた。６５歳で年金は２００ユーロくらいもらう、基本医療費は無料とか聞いた。日本に帰ったときには、歯ブラシ、サロンパス、胃薬、ふとんカバー、シーツ、さいばし、冷水パックなどを買ってくるそうです。やはり馴染んだものがいいそうで、日本製が細やかな所に配慮した商品が多いと言われます。

空港でガイドの入江さんとのお別れなので、写真を撮った。ワインとオリーブオイルが入った手提げ袋とオンブズマンとは何ですかと聞かれていたので、解説研究書も渡した。別れ際に、このテレフォンカードは、まだ使えますがと言ったら、入江さんは、公衆電話は、特に割引時間帯があり、極端に安い場合があると聞いています。問題ないので、この空港での使用が最後ですから利用してから乗ったらどうですかとアドバイスを受けた。青い服の係員が誘導案内して手続きにはいる。言われたとおり日本に電話したが、１枚だけも使いきれなかった。

またイタリアで使用するため、１万円をユーロに交換した。歩いてゆくと各ベンチで硬いパンを食べてる人が見える。藤原市長よりぎり寿司をもらって食べたら美味しかった。

ポルトガル航空８４２便は、１５時１０分に遅れてローマに向けて飛び立った。機内でも、サンドイッチとパインとジュースが出た。席はばらばらで、ひとりで座っている女の子の横がサングラスの怖い顔の人だったので、市長が「替わろうか」と言ったら、「いいです」と答えたので、市長は、「噛みはさっさんだろうから」と、言われたがその子に通じただろうか。２８列は一番うしろでトイレがあるのでシートも倒れない。

市長は、搭乗するやいなや歴史書を開き、マーカー片手に到着するまでひたすら熟読されており声も掛けられなかった。１冊読破されたようだ。これから行うローマ法王への謁見やキエーティ訪問時の挨拶内容に対しての裏付ける史実の確認ではと、ひとり勝手に思った。１７時４５分にレオナルド・ダ・ヴィンチ国際空港に着き、荷物を取ってホテルに向かう。スーツケースが、何個かが何処かを散歩していたが、夜遅く帰ってきた。寝る前に時計を１時間進めることにした。明日は、バチカン市国である。

少年使節はポルトガルからスペインへ、そしてイタリアにはいり、各地で大歓迎を受けている。だが、栄光と楽しみと同時に、長い船旅、風土病など辛い面も並行して付いて回っており、それらの葛藤にも多くの時間を費やしている。

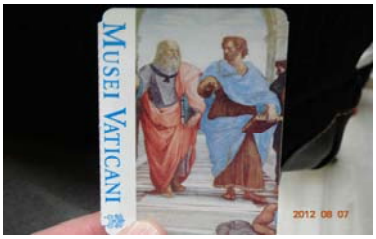
初めてのローマの朝なので、カメラを持って散歩に出た。２分くらいでカブール広場についた。カミッロ・カヴールは、卓越した外交術を駆使してイタリア統一を成し遂げた功績から後世「神がイタリア統一のため地上に使わした男」の呼び名が付き、イタリアの各地に広場や橋などに命名されている。目の前に旧最高裁判所などがある。横のカブール橋を渡たり東に行くとスペイン広場がある。広場から西に１ km 程行くとヴァチカン市国で、広場から南に行くとトレビの泉があり徒歩で訪問できる範囲だ。

朝食を済ませバスに乗り待っていると、２名がなかなか来ない。寝坊のよ

ローマ市内

カブール広場

城壁




チケット

３種の説明画

松ぼっくり

うで、少し遅れてバスは出発した。城壁が時折見える。ローマを取り囲んでいた城壁は、崩れているところも、いまは生活の中に生きています。厚さが６ｍで高さが１２ｍもあり、今残っている城壁のほとんどが紀元前２７１年、アウレリウス帝時代のものらしいです。

ヴァチカン市国に入国。ヴァチカンという名称は、「ウァティカヌスの丘」からとられ、聖ペトロが殉教したという伝承で当地が中心に成っている。チケット片手にイヤホンガイドを装着する。長時間なので入り口の自動販売機でミネラル水を１ユーロで購入し、トイレに行ったが、小便器の位置がが高くて、つま先だって用を足した。まずセキュリティチェックを済ませ、混雑するエントランスから長いエスカレータを昇って最初に「ピーニャの中庭」にはいると、建物沿いに何カ所も３種の説明画があり、左がミケランジェロ祭壇画、中央がシスティーナ礼拝堂と新旧約聖書の壁画、右がミケランジェロの天井画である。礼拝堂の中は撮影禁止なので、ここで事前に説明を済ませるが、説明が非常に長い。４３度の炎天下である。ピーニャとは松ぼっくりのことである。古代ローマ帝国時代は、噴水だったそうで、旧サン・ピエトロ大聖堂の前庭に置かれていたが、現在の大聖堂が建設されたのでピーニャの中庭に移された。中央の球体は、アルナルド・ポモドーロの「球のある球体」である。１９９０年にヴァチカンのために作られ、直径４ｍの大きさである。松ぼっくりの前で全体写真を撮り、ようやく進むこととなる。

ヴァチカン美術館と言うが、いくつも名称が付いて別れている。あまりにの多さに説明が前後したり間違っているかもしれませんので、ご了承下さい。カメラは、７千枚から１万枚（１枚２Ｍ～５Ｍ)、動画は、７０分を一台で交互に取れる最新カメラを準備して望んだ。

ヴァチカン宮殿の北側にある美術館、図書館など２０を越える施設の総称で、ヴァチカン宮殿、システィーナ礼拝堂を含めてヴァチカン美術館と呼ぶときもある。

まずピオ・クレメンティーノ美術館にはいる。八角形の中庭（ベルヴェデーレの中庭）の真ん中に里芋が植えてあった。ご存じの「ラオコーン像」、１５０６年ローマのエスクィリーノ丘で発見されている。トロイア戦争のおり、トロイの司祭ラオコーンが城内に木馬を入れないように主張したため神罰を受け、その場で子供たちとともに２匹のヘビに絞め殺されたという伝説の場面。「ベルヴェデーレのアポロ」と「ヘルメス」の彫像は共に２世紀頃のローマ帝国時代の作品である。次のミューズの間を代表する彫像は、「ベルヴェデーレのトルソ」で、イタリア語で「幹」の意味で頭や手足の無い裸身（胴体）の彫像のことをトルソと言うらしい。次の円形の間には、円形の間の床を飾るのはギリシャ時代のモザイクと、部屋を取り囲むように彫刻が並べられ、部屋の真ん中には、直径１３メートルもある一枚岩の斑岩で出来た水盤がある。天井は直径２２ｍのクーポラ（ドーム）でパンテオン（神殿）を模している。次にギリシア十字の間を抜けて二階に行くと大燭台のギャラリーがある。細い通路に天井壁絵が続き、ライトアップされている。次にタペストリーのギャラリー。織物絵で一場面ごとに精細に表現されている。さらに地図のギャラリーへと進んでゆく。イタリア各地を描いた地図が回廊の両側に４０枚あります。そして聖ピウス５世の部屋、ソビエスキ王の間、 無原罪（インマコラータ）のマリアの間へと

ピーニャの中庭

ラオコーン像

ベルヴェデーレのトルソ

円形の間

ギリシア十字の間

大燭台のギャラリー

歩いて行きます。後を付いてきてください。写真を撮るだけで精一杯なので、遅れないようにお願いします。

目玉展示は、ラファエロに、教皇ユリウス２世が、自らの居室にフレスコ画を描かせています。ラファエッロの間は「ボルゴの火災の間」「署名の間」「ヘリオドロスの間」「コンスタンティヌスの間」から成ります。

コンスタンティヌスの間は、コンスタンティヌス帝が十字架の夢を見て、夢のお告げ通りに戦ったら勝利したので、改宗した話です。次のヘリオドロスの間は、教皇レオ１世とアッティラの会見風景である。「署名の間」これは教皇が公式署名した部屋で、特にアテネの学堂が有名です。火災の間には、教皇レオ４世が十字を切ったらボルト地区の火事が鎮火した話です。

次はシスティーナ礼拝堂にはいります。警備が厳しく撮影は出来ないので、みんな立ち止まって天井を見上げてたままで、流れは止まってしまっている。礼拝堂は、シクストゥス４世の命により教皇礼拝堂として１４７５年に建設が始まり１４８１年に建物が完成している。ミケランジェロが４年の歳月をかけて描いた大天井画の『創世記』、６年かけた『最後の審判』の壁画があります。両側の壁際に椅子があるので、空いたら座って、じーっと上を見ていました。教皇を選出するコンクラーヴェの会場としても知られています。螺旋状階段をおりました。

最後になりましたが、サン・ピエトロ大聖堂にはいる。総面積は、約２万２千㎡で、６万人以上収容可能といわれている。ミケランジェロの設計したといわれる大円蓋（クーポラ）は高さ１３２．５ｍ、直径４２ｍと巨大。大円蓋の直下には、ベピエタ聖堂内には、十字架から降ろされたキリストを抱く聖母の像を表現したミケランジェロの代表作『ピエタ』がおかれている。ミケランジェロは、ピエタ像を 4 体制作しているが、サン・ピエトロ大聖堂にあるピエタは、２５歳の時の最初の作品であるがいちばん有名である。

出口に警護に当たるミケランジェロがデザインした華麗な服装のスイス人衛兵が２名立っている。市国警備員（スイス人衛兵）がいるものの、警備はイタリア国家警察が行っている。独自の放送局、銀行、郵便局、鋳貨施設、イタリア鉄道と連絡する鉄道などがある。本当かどうか、外国郵便ならヴァチカン内のポストに投函すると早く着くらしい、サン・ピエトロ広場に出ると、２８４本のドーリア式円柱で装飾された回廊により広場を取り囲むように構成されている。回廊の上には、ベルニーニの弟子らが作成した１４０体の聖人の像が飾られている。広場中央のオベリスクは 1 世紀頃にエジプトから運ばれて、バチカヌスの丘にあった競技場におかれていたものである。その広場で記念写真を撮った。

歩いてイタリアにはいり、少し行くとお店があったので、トイレを兼ね１０分ほどもらい日本語の写真付き説明書を購入した。観光ではないので、訪問先から訪問先までの間は、トイレ休憩と昼食時間しか休めない。

昼食は閑静でガーデンが広いレストランでの昼食であるが、ここも背が低いおじさんが給仕する。イタリアから国際交流員として南島原市に１年居たアンナさんが本日より通訳を兼ねて同行する。ここのレストランにも３名のおじさんがいるが、アンナさんにちょくちょく余分な会話をしに来るおじさんは、私より若いようであるが、頭はピカピカに輝いていました。

コロシアムの周りをバスは走り、真実の口がある教会前の真実の口広場

タペストリー（織物絵）

サン・ピエトロ大聖堂

サン・ピエトロ大聖堂

ピエタ

大聖堂にて

サン・ピエトロ広場

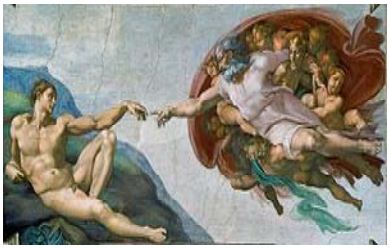
和解の道

に大勢のカップルや年配の方々の長い行列が見えた。次の訪問地に行く通りに「トレビの泉」があるので、立ち寄った。１個投げるとまたローマに戻れる、 ２個投げると好きな人と結婚できる、３個投げると嫌いな人と別れられるというものです。私も日本円の５円（ご縁）を泉に背を向けて投げました。投げた５円の数は秘密ですが、子供達がまだ投げているんですかと言いました。トイレのため近くの店でアイス頼んで地下のトイレに向かった。

サン・ジョバンニ・イン・ラテラノ大聖堂に着いた。ローマの四大バシリカ（古代ローマ様式の大聖堂）のひとつに数えられ、ラテラノ宮殿が隣接している。四大バシリカとはこのラテラノ大聖堂とサン・ピエトロ大聖堂、サンタ・マリア・マッジョーレ大聖堂、サン・パオロ・フオーリ・レ・ムーラ大聖堂である。ラテラノ条約は、１９２９年２月１１日にローマ教皇庁がムッソリーニ政権下のイタリア王国と締結した政教条約で、調印がローマ市内のサン・ジョバンニ・イン・ラテラノ大聖堂に隣接したラテラノ宮殿で行われた。ラテラノ大聖堂前の広場にはエジプトから運ばれたオベリスクが屹立している。このオベリスクはもともとトトメス 3 世によってハルナックに建てられたものだったが、ローマ時代に大競技場チルコ・マッシモに建てるために運ばれ、その後、競技場がなくなると、現在地に移された。また、こんな話も聞いた。かつてはバチカンを取り囲むように古い住宅がごみごみと立ち並んでいたが、イタリアの実権を握ったベニート・ムッソリーニはラテラノ条約によるカトリック教会との和解を世界にアピールしようと、サン・ピエトロ大聖堂正面の家屋を大胆に撤去し、広い街路を敷いた。これが「和解の道」といわれるバチカン市国前のメイン・ストリートである。

そのほかに、教皇庁とイタリアの間に締結されたラテラノ協定に従って、サン・ジョバンニ・イン・ラテラノ大聖堂、サンタ・マリア・マッジョーレ大聖堂、カステル・ガンドルフォ教皇庁宮殿など、ローマ市内外の施設にも主権（治外法権を有する）がある。また、グレゴリオ１３世の後を継ぎ即位したシクスト五世は、サンピエトロで戴冠式に彼らを招くとともにラテラノ教会の行幸にも彼らを参列させたのでした。この図の中に４人の少年が洋服姿で馬にまたがる毅然とした姿を見出します。ヴァチカンのシクスト五世の間の入口の右上の壁に残されている「ラテラノ教会行幸図」がこれです。

次にジェス教会に行く。ローマに着いたのは１５８５年３月２２日で、それからローマ少年使節が離れる６月３日まで、少年使節一行が宿舎にしたのが、ジェズ教会であり、イエズス会本部でもあった。前年に建てられたばかりであった。「長崎殉教図」と天井画の説明を受けた。アジア大陸を踏破してローマにたどり着いたペトロ岐部も祈りの場としていたと聞きました。明日は、いよいよローマ教皇（法王）への謁見でローマ法王庁の避暑地に向かう。長崎から法王庁に派遣されている和田神父が明日の打ち合わせでホテルに来られている。当時の４少年と同じように裃（かみしも）で謁見することに成っており、今夜は夜遅くまで幼い少年少女たちは、ひとりで着て、また脱いで、着たら草履で歩く練習が各部屋で繰り返されることであろう。ローマはまだ眠りについていない。

| | | |
|---|---|---|
| | | |
| コロシアム | ラテラノ大聖堂 | ラテラノ大聖堂の内部 |
| | | |
| ジェズ教会 | ジェズ教会の内部 | ジェズ教会の天井画 |
| | | |
| 馬上の少年使節たち | 長崎殉教図 | 地図の間 |
| | | |
| ソビエスキ王の間 | 無原罪 | コンスタンティヌスの間十字の出現 |
| | | |
| ヘリオドロスの間 | 署名の間・アテネの学堂 | 火災の間 |
|  | | |
| 創世記 | 最後の審判 | ヴァチカン内 |